

漫録

歐米を一巡して

尊事 三浦七郎



夏の盛りの七月廿二日に門司を出帆して波濤萬里の旅に上つた。故國を離るゝ時は流石に名残が惜まるゝが未見の地を踏む時の愉快を想像すると雄心勃勃々心氣自ら爽快を覺ゆる。船は日本郵船の箱崎丸で一萬四百二十噸だ。是で大海を横切れるかと不安に堪へなかつたが、大洋の大きさに比べると一萬噸も五萬噸も矢張木の葉に過ぎないと諦めるよ

り外なかつた。航海中は船員の丁寧な取扱とデツキ・ゴルフ・ピンボン、輪投げ等の競技で無聊を慰められた。外人特に英人が多かつたが内には食堂に出るにカラーをはめない様な無作法の者もあつた。河馬と渾名された西洋の御醫者様もあつて非常な人氣男だつた。船は上海香港を經て新嘉坡に着く頃から赤道圏内に入るので、暑さも可なり酷し

いが特有の驟雨が時々襲來するので大分暑熱を緩和して呉れた。

綠樹鬱蒼たる錫蘭島を過ぎ紅海に入った所が、此處は兩岸沙漠の反射熱の爲、暑熱地球上最も峻烈なりと云はれる所だけに堪へ切れない位の苦しみを受けた、船室内に居たまらずデツキに夜を明かす人も大分あつた、蘇士運河を通つて八月廿六日歐洲文明の源泉たる地中海に入った頃から昨日の暑さに比べて急激の涼しさとなり夏服を捨て、合着に替へる様になつた。八月三十日未明馬耳塞港に入つて八時半の朝食後税關の手續も簡單に濟んだ、茲に始めて歐洲大都會の風光に接することが出來て、得も言はれぬ愉快を味ふと同時に今迄は澤山の同胞が集まつて互に慰めたり慰められたりして居たが、今日から愈々東西も辨へず言葉の不便な外國の地をさまよい歩かねばならぬかと一種の恐怖を伴つた。誰の顔にも心配の色が浮んで居たのは争はれない事實だ。航海中上海、香港を始め多くは不愉快の印象を與ふる案内人や乞食が多いが、此處は文明國だけに餘りう

るさく着き纏はないので一安心だ。是から巴里ドバー海峡を渡つて九月三日倫敦に着いた。七百五十萬の人口を有し長く我が憧憬の地である倫敦はどんなに綺麗な町だろうと想像して居つた。所が想像して居た文明都市の美觀と計畫とは何處にも見られないで、只煤煙の都市としての初印象を残すに過ぎなかつた。ある家は馬鹿に高く或る家は馬鹿に低く、小さい煙突が一軒の家に五六本も立つて居て非常な眼障りとなる、家の赤煉瓦はどす黒く白い壁は灰色になつて何處を見るも明るい感じを與ふる所がない、町幅は狭く其の混雑と云つたら御話にならない。一番繁華な町と云はれるオックスフォード街やピカデーサーカス等は人の波に揉まれながら群衆と共に進むより外はない。一人急いで先に行かうなどと云ふことは思ひも寄らないことだ。車道の混雑は尙一層激しく交叉點に來る毎に停車するので、電車やバスに乗るよりも近い所なら歩いた方が餘程早い位だ、夫で地下鐵道が交通緩和に一方ならぬ貢獻をして居る。倫敦の交通は今や全く行き詰まりの状態では如何にして

緩和するか、如何に救済するかは市民の最も悩みの種で
倫敦タイムスなども日々色々の論説を掲げて居る。此の混
雑の御蔭で交通整理は理想通りに行かれて居るので、昨年
も巴里伯林から特に専門家が澤山集つて來て是を見學した
と云ふことだ。一面では名譽の様だが他面都市計畫の誤れ
る例證とされて恥しい次第だらう。東京の銀座に相當する
レーゼント街では折角の立派な店を壊して街路の擴張にか
かつて居る、他の部分も何れは同じ運命に陥ること、思ふ
が、是がため要する費用は巨額に上り然も充分の効果を期
することは出来ない。千六百六十六年九月二日倫敦大火が
あつて約一千萬磅の大損害を蒙つた時、理想都市を新設す
る二案が提出されたけれど何れも市民の反對で成立しな
かつた。其の祖先の誤れる意見が世界一を誇る現在の倫敦見
に如何に大なる禍を興へて居るか、悔いては及ばぬことな
がら倫敦は今や都市としての資格を失墜せんとして居る、
願ひて我が東京の復興計畫に及び思ひ半ばに過ぐるものが
あつた。十一月に入ると此の國の灰色の空は益々濃くなつ

て殆ど天日を見ることがない、毎日く厭な雨ばかりで先
張オバーシューズや傘の必要が起つた、日本に居る時歐洲
では傘の必要が無いと聞いて、折角新に買った傘を日本に
残して來たのが残念で、丁度一年間雨に濡れ通して傘を買
はないと云ふ日本人に逢つた。一寸滞在した人が短い經驗
で教へた話が一年間人を苦しめて居るのも滑稽だつた。愈
々名物の霧が襲ふ頃となつた。電燈の光が通じないだけに
夜よりも尙暗い。交通機關は一時全部止まつてしまふが暫
時すると霧も薄くなる。一日の内に數回之が繰り返へされ
るので不愉快をますばかりだ、一通りの調査も済んだので
十二月三日に再度ドバー海峡を超へて巴里の人となつた。
燈ともす頃サンラーザールの停車場に着いて友人のA君
に連れられてソロボン大學前の下宿屋に入つた。

倫敦の町に比べると巴里は繊細優雅の感じを興へる都
だ。西洋の諺に凡ての人は二つの國を持つ、一つは自分の國
で今一つは佛蘭西であると。旅行者が巴里に來た瞬間に巴
里の華美な外形に魅せられる、絢爛眼を眩ます店の飾り、藝

衛的な建物、凄艶な電燈の光り何れも讚美の種ならざるはない、幾人の帝王と幾百人の天才とが、其の智腦と財籜とを傾けて築き上げた此の都はさすがに文明都市の誇を有して居る。大秦破甕の記念日には丁度夕日が、凱旋門のアーチの間に落ちる様に造つたと言ふエトワールから、「シャンゼリゼー」の大路を通つて「コンコールド」の廣場に出る間は何度通つても厭きない所だ。佛蘭西に這入るとホツト息を吐く様な心易さを感じる程に人に親しみがあゝる。黄色人種だからとて振返つて見やうとするものはない、貧者も富者も同じ様に人生を享樂することの出来るのは巴里ばかりだ。總ての公園、總ての美術館何れも平等の悅樂を吾人に與へて居る。萬里の孤客も陶然として享樂の雰圍氣に解け込んでしまふのである。

器械の操縦に妙を得て居るのは佛蘭西の特長であるから自動車には速度の制限がない、是で事故が少いから不思議だ。グランブルバールやシャンゼリゼーを横切る時などは全く命懸けだ。然るに倫敦の様に整然たる交通整理をやつて

居ないから危險は益々深刻だ。誰も言ふことだが西洋で道を横切る時は女の後に跟いて行くに限ると聞いて居るので常に之を忘れなかつた。或る時知人が來て巴里の運轉手が如何に巧妙に車を止めるかを試験して見せやうと云ひ出した。甚だ興味ある事ながら僕は官命を帯びて少からぬ官費を貰つて來て居るから、自動車にひかれて恥を異郷に曝し度く無いと斷つたが、其の點はお互の事で充分心得て居る決して心配はないとの再三の勧めで愈々グランブルバールの處で決行する事になつた。夕方六時頃最も輻輳の時間を選んで警笛を鳴らしても何知らぬ顔で横切りかけたが、丁度二三尺の所まで接近するとピツタリ止まつてしまふので幸ひに友人の云ふこと通り危命を助かつた。タキシードが世界一に廉價なので之を利用するのが非常に多い、丁度米國からの歸りがけに船の内の一人の話では巴里では、到底危險で歩けないから常に自動車を雇つたと云つて居たが夫程安價である。この混雜の巴里で自動車の最も恐るゝものは乳母車である、乳母車を押す下女に如何な過失があつても

之に衝突した運轉手のみが罰せられる規定になつて居る、出生率の少ない佛蘭西で子供保護の精神から出たのか誠に結構なことだ。

四月十四日に巴里を立つて途中佛蘭西の製鐵事業を視察しライン河を下つて獨逸に入り、ブレーメルハンブルヒキールを経て二十二日に柏林に着いた、歐洲第一の新都市と讚美せられるだけに倫敦巴里とは異なる都市の發達をなして居る。質實な研究好きの國民らしい氣分が何處にも漂ふて佛蘭西から來た旅行者が何時も此處で興奮せられる由である。フリードリッヒ大王及カイザーウィリヘルム一世時代に遂行せる獨逸の都市は總てに新しい味を有して居る、何れ近い將來に歐洲に覇を稱へるものはゲルマン民族ではあるまいかとは期せずして誰れの胸にも浮ぶ感想である、夫程國民に元氣が横溢して居る、戦時及戦後には大分營養不良兒も多かつたらうが現在では殆ど夫等を見受けない、偉大な骨格と絶倫の精力とを持つて日夜孜々と復讐を圖つて居るのが獨逸の現状である、佛蘭西に對する敵愾心

は夢寢にも忘れまいと言つて居る、此の獨逸の都市中でも柏林は殊に理想的の計畫を遂行したる所で街路の廣さと云ひ、建物の高さと云ひ街路樹の植ゑ方と云ひ實に氣持よく出來て居る歐洲では恐らく此の右に出るものはあるまいと思はれる、總ての街路が殆ど一定の幅員を有して居るが交通の混雜も尠い、巴里の様に澤山の一方向道路を設くるの必要もないので極めて小範圍に限つて交通の方向を制限して居る、柏林唯一の美觀を呈する「ウンターデンリンデン」街は勿論巴里の「シャンゼリゼ」街には遙か及ばなければど凱旋門から王宮に至る目貫の通りで堂々たる建物が軒を並べて居る、リンデンの花咲く頃綠蔭の散策亦忘れ難い印象を刻するものがある。然し柏林では他の街路も殆ど是に似た廣さと美さを有して居るから、劃一主義の批難はあるにしても近代都市としての資格は充分に具備して居る様に思ふ、柏林で一年中の最良時節と稱せられる春から初夏の頃まで滞在して七月廿五日奧太利チエツコスローベキア、瑞西伊太利諸國への旅に上つた。八月の半ば再び巴里に歸

つて歐洲の名残を盡くし、八月廿九日佛國セーブルからアキタニア號で渡米の途に就き九月四日未明ハドソン灣に入港した、眼前に展開する紐育の高層建築、五十五階七百五十呎で世界第一の高さと稱せられるウールラースの建物、之に連なるブロードウェイの偉觀何れも驚異的ならざるはない、近世文明の生める紐育市の發達、世界經濟上の中心地ウラール街の殷賑、僅か百五十年の新都市としては眼覺ましい發展振りである。

紐育の路面交通は倫敦と同様全く行き詰りの状態にある。之を補ふ地下、高架線は大分緩和劑となつて居るが路面の方は如何ともすることが出来ない混雑である、一度試験のために丁度夕方五時頃一番のラッシュエアワーに、ブロードウェイ市役所前の廣場からバスに乗つて歩道の歩行者と何れが早いかをためした、交叉點に来る毎に信號のため停車するので結局バスの方が遅れてタイムスクエヤーに來る頃漸く先になり殆ど同時に着いた、此の間一時間餘を費した、之はブロードウェイであつたが、他の第五街でも同

じ様の混雑で乗物を利用しても單に疲れないだけで時間の經濟にはならないといふことになる混雑時を除いては勿論此の試験は當て籤らない、最近の都市として紐育も既に其の計畫の小なりし事を後悔して居る。國家經濟上の見地より將來の交通問題を如何に解決すべきかは各國の惱める難問題の一つである、倫敦では既に空中陸上、海上の交通聯合會議を起して此の問題に議論を戦はして居る。

九月廿九日から米國內地旅行をやつて十月十三日正午桑港を出帆、十月三十日早朝再び富士の秀峰を眺めつゝ懐しい故國の人となつた。